

1 平成29年度ごみ処理実績表

【表 1】 人口・世帯数比較表（対前年度比）

| | 平成29年度 | 平成28年度 | 増減 | 対前年度比 |
|-----------|---------|---------|-------|--------|
| 人 口（人） | 601,055 | 596,505 | 4,550 | 100.8% |
| 世 帯 数（世帯） | 281,681 | 276,461 | 5,220 | 101.9% |

※各年度3月31日現在

【表 2】 ごみ発生量比較表（対前年度比）

| | 平成29年度(t) | 平成28年度(t) | 増減(t) | 対前年度比 |
|----------------|-----------|-----------|--------|--------|
| 排 出 量 | 182,598 | 185,062 | -2,464 | 98.7% |
| 排出量（集団資源回収を除く） | 169,597 | 171,432 | -1,835 | 98.9% |
| 一 般 ご み | 145,082 | 146,451 | -1,369 | 99.1% |
| 粗 大 ご み | 6,044 | 5,923 | 121 | 102.0% |
| 資 源 物 | 18,386 | 18,978 | -592 | 96.9% |
| ①びん | 3,614 | 3,711 | -97 | 97.4% |
| ②飲料かん | 1,372 | 1,403 | -31 | 97.8% |
| ③金属類 | 1,353 | 1,353 | 0 | 100.0% |
| ④ペットボトル | 2,001 | 1,968 | 33 | 101.7% |
| ⑤繊維類 | 1,833 | 1,829 | 4 | 100.2% |
| ⑥紙類 | 4,902 | 5,374 | -472 | 91.2% |
| ⑦プラスチック製容器包装 | 3,311 | 3,340 | -29 | 99.1% |
| 乾 電 池 | 61 | 69 | -8 | 88.4% |
| 有害ごみ（蛍光管） | 11 | 11 | 0 | 100.0% |
| 集 団 資 源 回 収 | 13,001 | 13,630 | -629 | 95.4% |
| 災 害 廃 棄 物 | 13 | 0 | 13 | 皆増 |

【表 3】 家庭系・事業系別排出量比較表（対前年度比）

| | 平成29年度(t) | 平成28年度(t) | 増減(t) | 対前年度比 |
|-------------|-----------|-----------|--------|--------|
| 家 庭 系 | 124,069 | 125,376 | -1,307 | 99.0% |
| ①一 般 ご み | 99,642 | 100,469 | -827 | 99.2% |
| ②粗 大 ご み | 5,991 | 5,878 | 113 | 101.9% |
| ③資 源 物 | 18,364 | 18,949 | -585 | 96.9% |
| ④乾 電 池 | 61 | 69 | -8 | 88.4% |
| ⑤有害ごみ（蛍光管等） | 11 | 11 | 0 | 100.0% |
| 事 業 系 | 45,515 | 46,056 | -541 | 98.8% |
| ①一 般 ご み | 45,440 | 45,982 | -542 | 98.8% |
| ②粗 大 ご み | 53 | 45 | 8 | 117.8% |
| ③資 源 物 | 22 | 29 | -7 | 75.9% |

【表 4】 中間処理量比較表（対前年度比）

| | 平成29年度(t) | 平成28年度(t) | 増減(t) | 対前年度比 |
|-----------|-----------|-----------|--------|--------|
| 焼 却 処 理 | 151,512 | 152,693 | -1,181 | 99.2% |
| 破 碎 処 理 | 4,672 | 4,495 | 177 | 103.9% |
| 資 源 化 処 理 | 18,389 | 18,983 | -594 | 96.9% |

【表 5】 最終処分量比較表（対前年度比）

| | 平成29年度(t) | 平成28年度(t) | 増減(t) | 対前年度比 |
|-----------|-----------|-----------|-------|--------|
| 焼 却 残 渣 | 6,819 | 7,424 | -605 | 91.9% |
| 資 源 化 物 | 28,424 | 28,931 | -507 | 98.2% |
| 処 理 困 難 物 | 117 | 113 | 4 | 103.5% |

※平成34年度を目標年度とする最終処分量（焼却残渣物）の目標は4,800 t

【表6】 資源化物比較表（対前年度比）

| | 平成29年度(t) | 平成28年度(t) | 増減(t) | 対前年度比 |
|----------------------|-----------|-----------|-------|--------|
| 資 源 化 物 | 28,424 | 28,931 | -507 | 98.2% |
| ①焼却残渣金属 | 653 | 656 | -3 | 99.5% |
| ②未酸化鉄 | 750 | 791 | -41 | 94.8% |
| ③未酸化アルミ | 63 | 79 | -16 | 79.7% |
| ④溶融スラグ | 7,896 | 7,979 | -83 | 99.0% |
| ⑤焼却残渣物（セメント資源・路盤材資源） | 1,094 | 800 | 294 | 136.8% |
| ⑥再生粗大ごみ | 10 | 10 | 0 | 100.0% |
| ⑦破碎前金属 | 176 | 177 | -1 | 99.4% |
| ⑧破碎後金属 | 766 | 760 | 6 | 100.8% |
| ⑨破碎前アルミ屑 | 31 | 29 | 2 | 106.9% |
| ⑩破碎後アルミ屑 | 19 | 21 | -2 | 90.5% |
| ⑪びん | 3,519 | 3,615 | -96 | 97.3% |
| ⑫飲料かん | 1,129 | 1,137 | -8 | 99.3% |
| ⑬金属類 | 1,026 | 1,095 | -69 | 93.7% |
| ⑭繊維類 | 1,311 | 1,414 | -103 | 92.7% |
| ⑮ペットボトル | 1,713 | 1,653 | 60 | 103.6% |
| ⑯紙類 | 4,779 | 5,247 | -468 | 91.1% |
| ⑰プラスチック製容器包装 | 2,982 | 2,957 | 25 | 100.8% |
| ⑱特定家庭用機器 | 8 | 9 | -1 | 88.9% |
| ⑲小型家電 | 427 | 422 | 5 | 101.2% |
| ⑳乾電池 | 61 | 69 | -8 | 88.4% |
| ㉑二次電池 | 0 | 0 | 0 | — |
| ㉒蛍光管 | 11 | 11 | 0 | 100.0% |

【表7】 1人・1世帯あたり排出量比較表（対前年度比）

| | 平成29年度(g) | 平成28年度(g) | 増減(g) | 対前年度比 |
|----------|-----------|-----------|-------|-------|
| 1人1日あたり | 832 | 850 | -18 | 97.9% |
| 1世帯1日あたり | 1,776 | 1,834 | -58 | 96.8% |

※ 1人（1世帯）1日あたり排出量＝排出量÷年度末人口（世帯）÷365日

※ 平成34年度を目標年度とする市民1人1日あたりのごみ排出量目標は844g

【表8】 資源化率及びリサイクル率比較表（対前年度比）

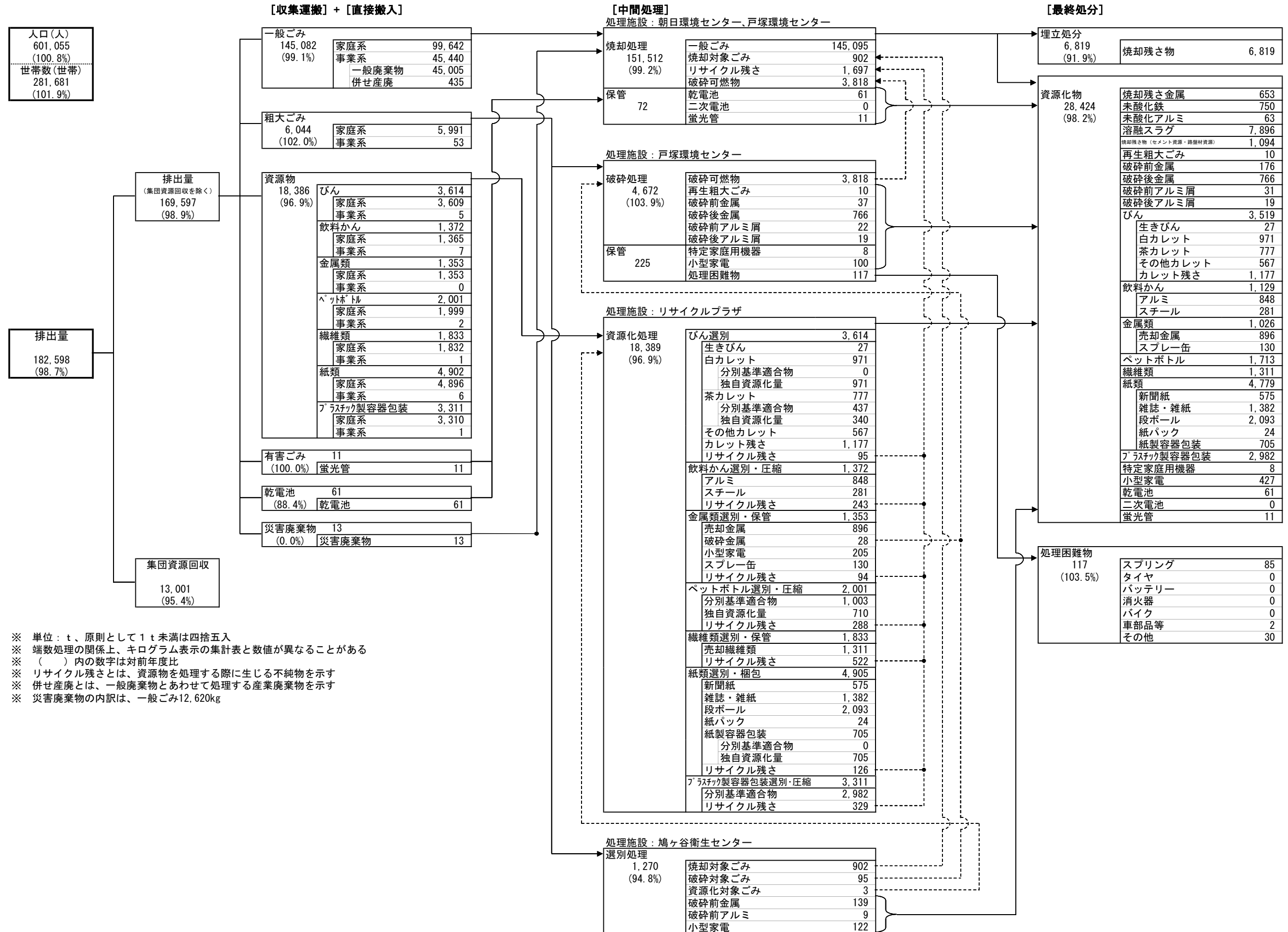
| | 平成29年度(g) | 平成28年度(g) | 増減(%) | 対前年度比 |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|
| 資源化率(%) | 16.8% | 16.9% | -0.1 | 99.4% |
| リサイクル率(%) | 22.7% | 23.0% | -0.3 | 98.7% |

※ 資源化率(%)＝資源化物÷排出量（集団資源回収を除く）×100

※ リサイクル率(%)＝（資源化物＋集団資源回収）÷排出量×100

※ 平成34年度を目標年度とするリサイクル率の目標は35.0%

2 平成29年度ごみ処理実績フローシート



※ 単位：t、原則として1t未満は四捨五入
 ※ 端数処理の関係上、キログラム表示の集計表と数値が異なることがある
 ※ () 内の数字は対前年度比
 ※ リサイクル残さとは、資源物を処理する際に生じる不純物を示す
 ※ 併せ産廃とは、一般廃棄物とあわせて処理する産業廃棄物を示す
 ※ 災害廃棄物の内訳は、一般ごみ12,620kg

3 廃棄物の排出状況

(1) 排出量の推移

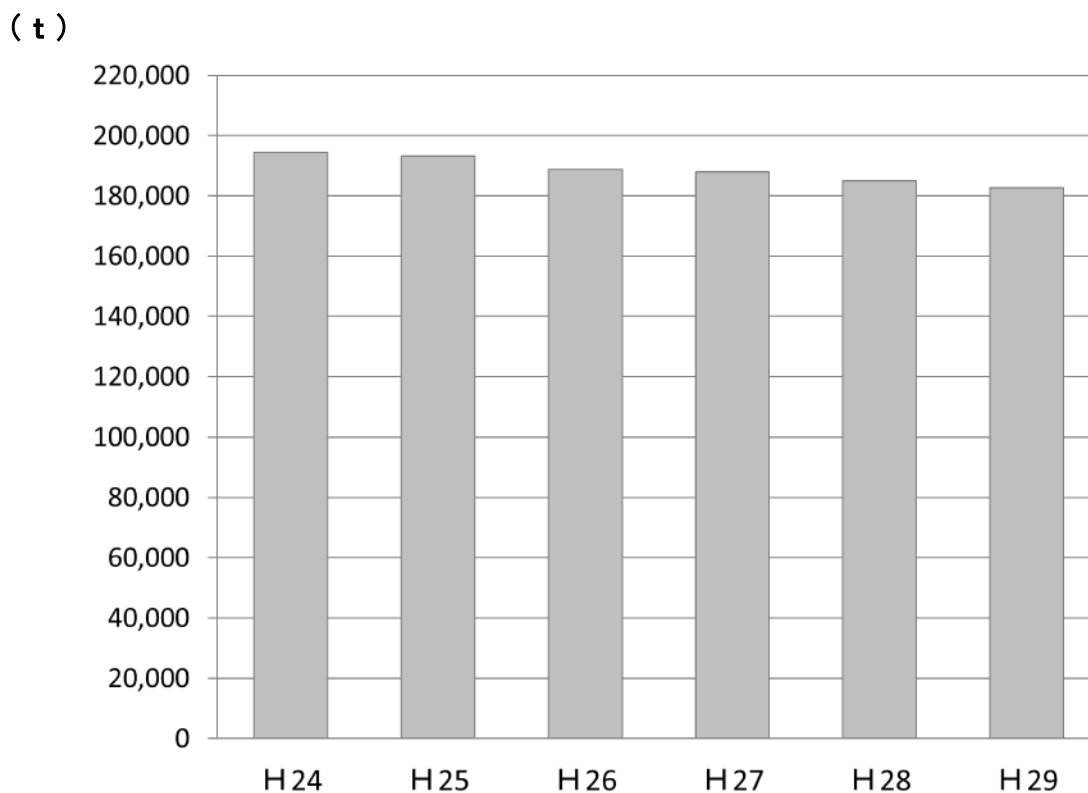
平成29年度は対前年度比▲1.3% (▲2,464 t) となった。

なお、「排出量」とは、本市における一般廃棄物の総量のことであり、集団資源回収量及び併せて処理する産業廃棄物の量を含む。

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 排出量 (t) | 194,338 | 193,109 | 188,817 | 188,023 | 185,062 | 182,598 |
| 対前年度比 | — | 99.4% | 97.8% | 99.6% | 98.4% | 98.7% |

※災害廃棄物量を含む。

図1 排出量の推移



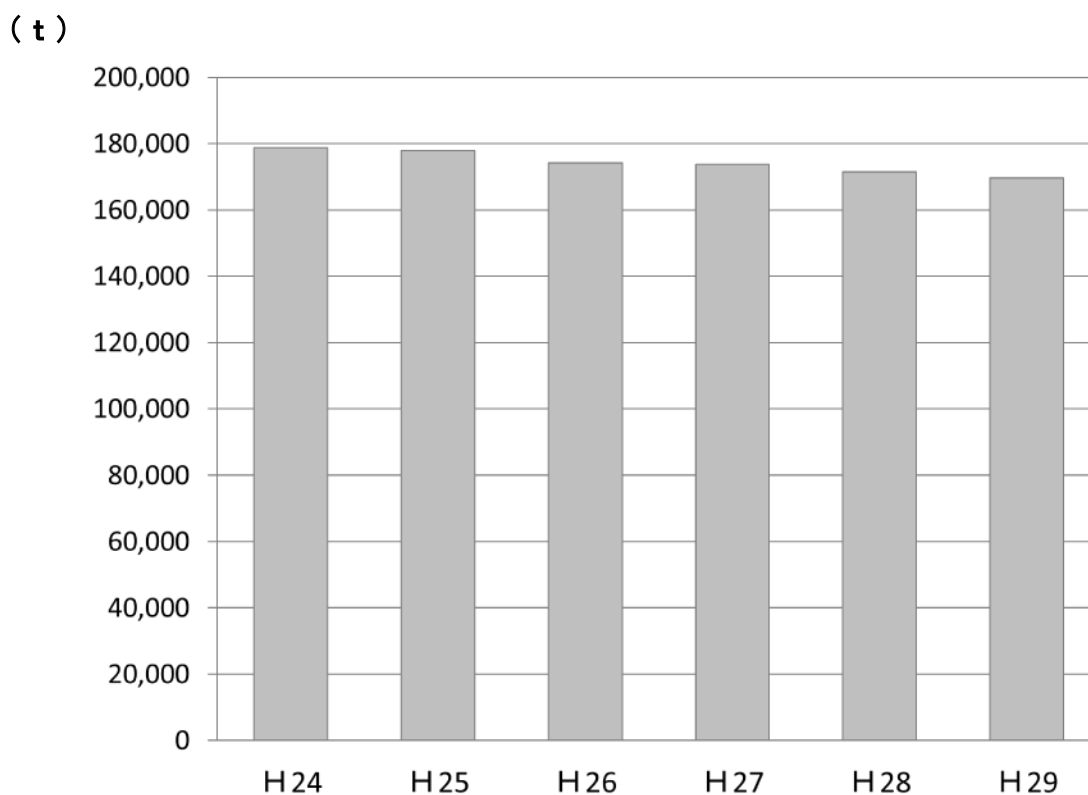
(2) 排出量（集団資源回収を除く）の推移

「排出量」から、集団資源回収を除いた「排出量（集団資源回収を除く）」について、平成29年度は対前年度比▲1.1%（▲1,835 t）となった。

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 排出量（t） （集団資源回収を除く） | 178,769 | 177,900 | 174,236 | 173,693 | 171,432 | 169,597 |
| 対前年度比 | — | 99.5% | 97.9% | 99.7% | 98.7% | 98.9% |

※災害廃棄物量を含む。

図2 排出量（集団資源回収を除く）の推移



(3) 家庭系・事業系別排出量（集団資源回収を除く）の推移

「排出量（集団資源回収を除く）」の内、家庭系については、平成29年度、対前年度比▲1.0%（▲1,307 t）となった。

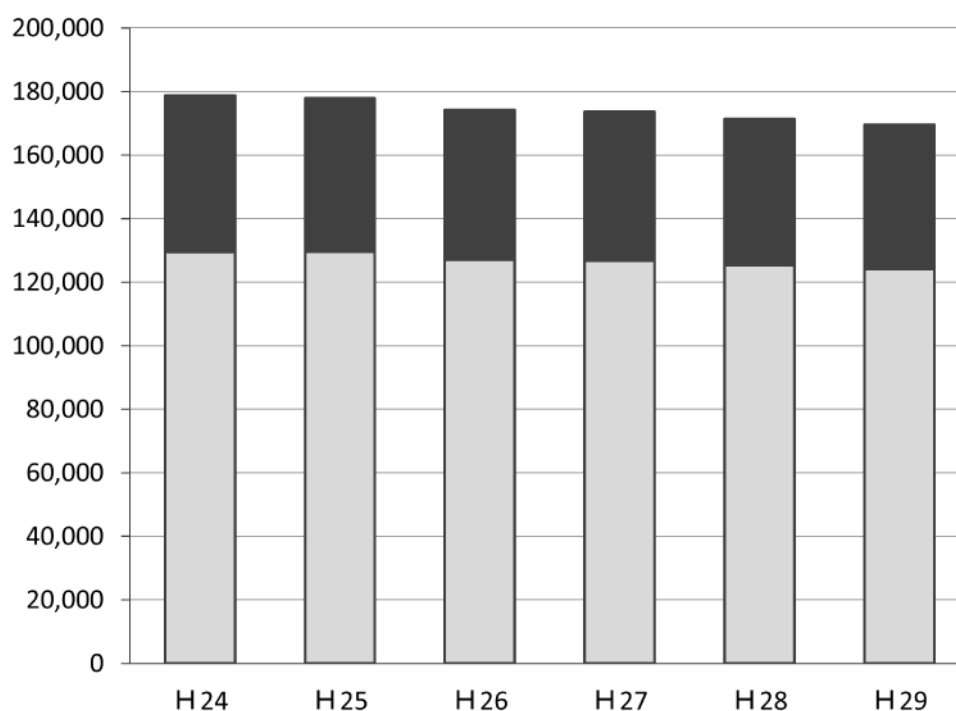
一方、事業系は一貫して減少傾向にあり、平成29年度は、対前年度比▲1.2%（▲541 t）となった。

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 排出量（t） （集団資源回収を除く） | 178,767 | 177,898 | 174,235 | 173,693 | 171,432 | 169,584 |
| 家庭系排出量 （t） （集団資源回収を除く） | 129,474 | 129,581 | 127,105 | 126,816 | 125,376 | 124,069 |
| 対前年度比 | — | 100.1% | 98.1% | 99.8% | 98.9% | 99.0% |
| 事業系排出量 （t） | 49,293 | 48,317 | 47,130 | 46,877 | 46,056 | 45,515 |
| 対前年度比 | — | 98.0% | 97.5% | 99.5% | 98.2% | 98.8% |

※災害廃棄物量を含まない。

図3 家庭系・事業系別排出量（集団資源回収を除く）の推移

(t)



(4) 分別収集の推移

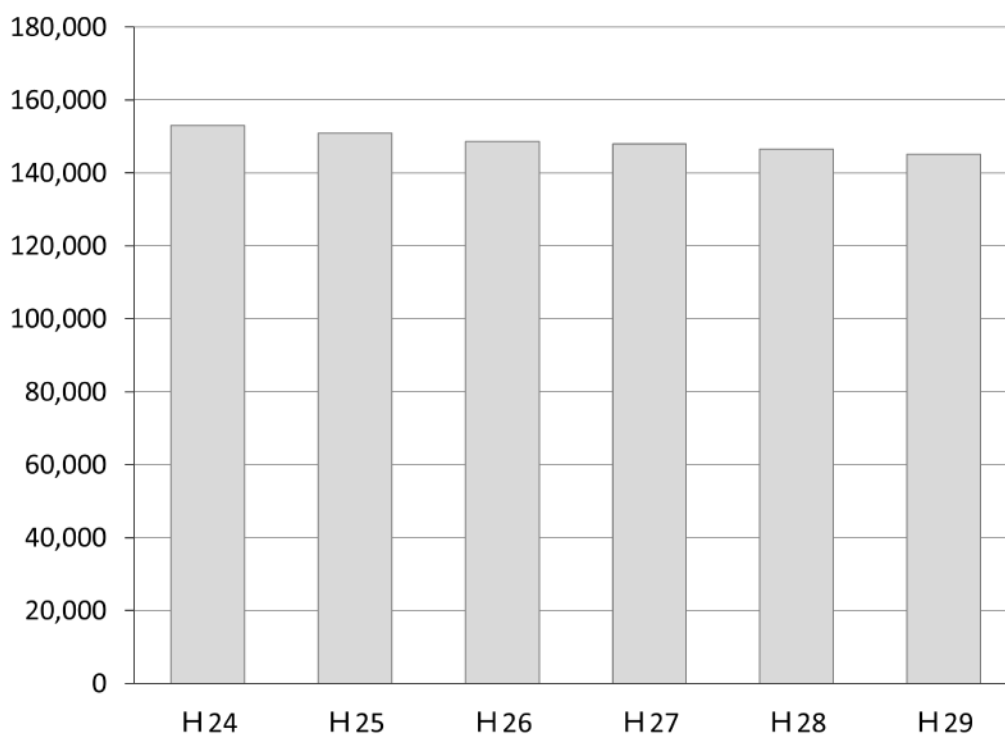
ア 一般ごみ

平成29年度は、対前年度比▲0.9% (▲1,369 t) となり、5年連続の減少となった。

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 一般ごみ (t) | 152,950 | 150,961 | 148,568 | 147,970 | 146,451 | 145,082 |
| 対前年度比 | — | 98.7% | 98.4% | 99.6% | 99.0% | 99.1% |

図4 一般ごみの推移

(t)

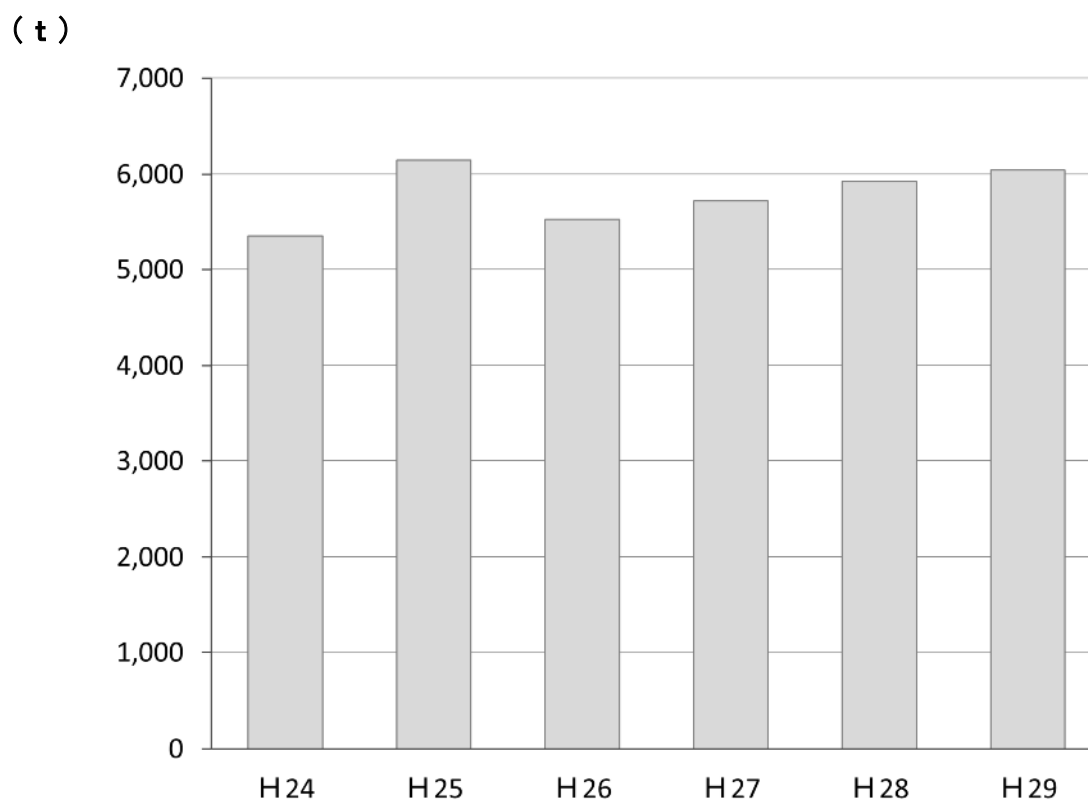


イ 粗大ごみ

平成29年度は対前年度比+2.0% (+121 t) となり、3年連続の増加となった。

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 粗大ごみ (t) | 5,359 | 6,148 | 5,529 | 5,723 | 5,923 | 6,044 |
| 対前年度比 | — | 114.7% | 89.9% | 103.5% | 103.5% | 102.0% |

図5 粗大ごみの推移

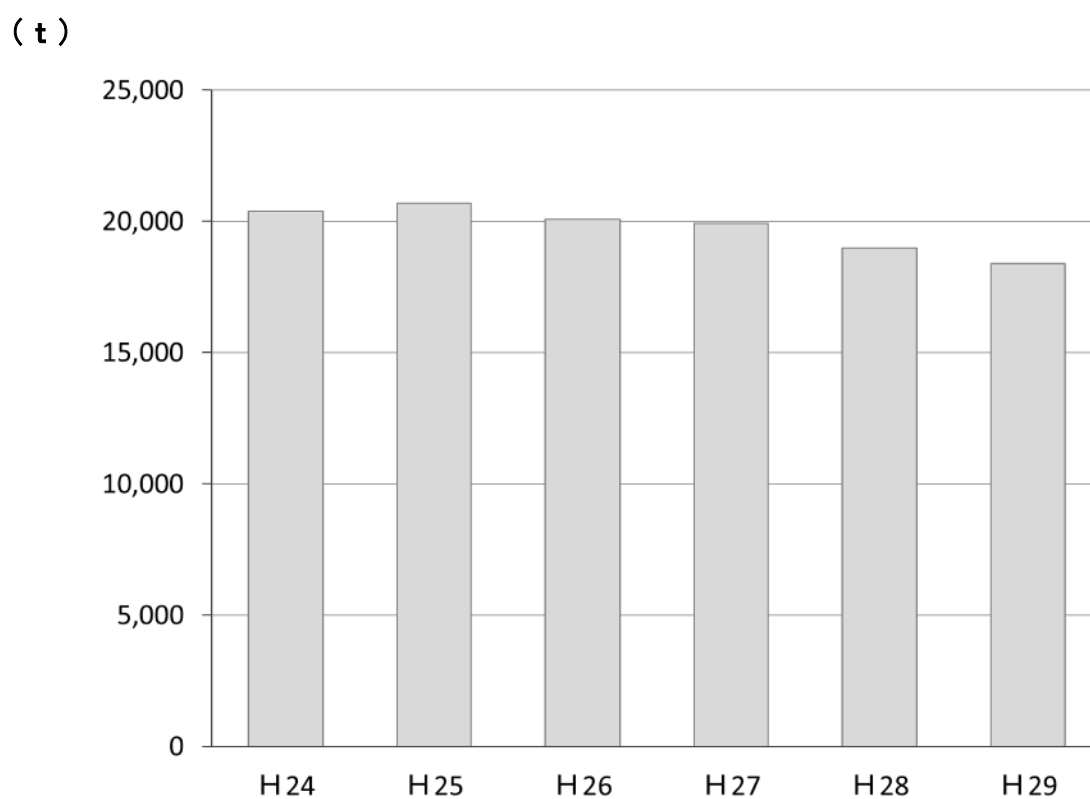


ウ 資源物

平成29年度は対前年度比▲3.1% (▲592 t) となり、4年連続の減少となった。

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資源物 (t) | 20,388 | 20,696 | 20,078 | 19,911 | 18,978 | 18,386 |
| 対前年度比 | — | 101.5% | 97.0% | 99.2% | 95.3% | 96.9% |

図6 資源物の推移



(5) 「第6次川口市一般廃棄物処理基本計画」における目標

ア 1人1日あたりのごみ排出量の目標

平成34年度に、1人1日あたりのごみ排出量を844g/人・日以下にする。

| | |
|------|---------------------------------|
| 基準値 | 平成23年度実績 944g/人・日 |
| 最終目標 | 平成34年度目標 844g/人・日 (基準値から100g削減) |

| | | |
|--------|----|------------------------|
| 平成29年度 | 目標 | 894g/人・日 (基準値から50g削減) |
| | 実績 | 832g/人・日 (基準値から112g削減) |

イ リサイクル率の目標

平成34年度に、リサイクル率を35%以上にする。

| | |
|------|-------------------------------|
| 基準値 | 平成23年度実績 24.0% |
| 最終目標 | 平成34年度目標 35.0% (基準値から11.0%向上) |

| | | |
|--------|----|------------------------|
| 平成29年度 | 目標 | 30.0% (基準値から6.0ポイント向上) |
| | 実績 | 22.7% (基準値から1.3ポイント下落) |

ウ 最終処分量の目標

平成34年度に、最終処分量を4,800t以下にする。

| | |
|------|--------------------------------|
| 基準値 | 平成22年度実績 7,141t |
| 最終目標 | 平成34年度目標 4,800t (基準値から32.8%削減) |

| | | |
|--------|----|-----------------------|
| 平成29年度 | 目標 | 6,000t (基準値から16.0%削減) |
| | 実績 | 6,819t (基準値から4.5%削減) |

川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例改正（案）の パブリックコメント意見募集結果について

1 実施内容

(1) 募集期間

平成30年6月14日（木）から平成30年7月13日（金）まで

(2) 条例案の公表場所

①川口市ホームページ ②市政情報コーナー ③資源循環課

(3) 意見受付方法

①文書の持参 ②文書の郵送 ③FAX ④メールフォーム

2 意見提出結果

(1) 意見提出者 1名

(2) 意見件数 1件

(3) 意見概要と市の考え方

| 番号 | 該当箇所 | 意見概要 | 市の考え方 |
|----|-----------|--|---|
| 1 | 3改正の概要(2) | 過料だけの処分では甘いと感じるので、罰則に市事業への入札5年間禁止、違反段階で川口市事業に参画している場合取引停止、広報かわぐち及び市ホームページ等の広告掲載5年間禁止、広報かわぐち及び市ホームページ等で所在地と名称の公表を追加してほしい。 | 罰則は市の命令に対する実効性確保のために規定するもので、改正(案)にある過料でも十分に厳しい内容であると考えます。 入札禁止、取引停止、広告掲載禁止は、市の事業に参加させない措置であり、市の事業と関係ある違反者に対しては一定の効果が期待できますが、市の事業と関係のない違反者には効果はなく、公平性にも欠けること、また、公表につきましても、社会一般の反応によっては罰則以上の不利益を与えることも想定されることから、修正しないものとしたします。 |

川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例改正案について

1 改正の趣旨

川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例は、廃棄物の発生を抑制し、及び再生利用を促進することにより廃棄物を減量するとともに、廃棄物を適正に処理し、あわせて地域の清潔を保持することによって、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的としています。

事業活動に伴って生じた事業系一般廃棄物を自ら処理し、若しくは許可業者に処理を委託する義務若しくは事業系一般廃棄物の保管場所を設置する義務に違反した事業者又は市長が求めた必要な報告をしない事業者若しくは市の職員による立入検査に応じない事業者に対し、過料を設けることにより事業系一般廃棄物の適正な処理を促進し、もって生活環境の保全を図るため、その条例の一部を改正します。

2 現在の条例規定内容

- (1) 事業者は、事業系一般廃棄物を自らの責任において市の施設に搬入し、又は市の収集運搬許可業者に委託しなければなりません。
- (2) 事業者は、再生利用の対象となる物及び事業系一般廃棄物の保管場所を設置しなければなりません。
- (3) 市長は、事業者が上記規定に違反していると認めるときは、その事業者に対し、期限を定めて、改善その他必要な措置を命ずることができます。
- (4) 市長は、占有者その他必要と認める者に対し、必要な報告を求めることができます。
- (5) 市長は、市職員に、必要と認める場所に立ち入り、廃棄物の減量及び処理に関し、帳簿書類その他の物件を検査させることができます。

3 改正の概要

- (1) 条例に基づく市の求める必要な報告をせず、若しくは虚偽の報告をした事業者又は市の職員が行う検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した事業者に対し、勧告、命令の規定を加えます。
- (2) 上記の命令に違反した事業者及び事業系一般廃棄物を自ら処理し、若しくは許可業者に処理を委託する義務又は事業系一般廃棄物の保管場所を設置する義務に違反し、市による改善命令に従わなかった事業者に対し、過料の規定を加えます。

4 施行期日

平成31年4月1日から施行

東川口駅南口指定喫煙場所の一部廃止について(案)

1 現状

- ・ 川口市路上喫煙の防止等に関する条例の規定に基づき指定した路上喫煙禁止地区の実効性を確保するため、東川口駅南口駅前広場に交番側とバス停側の2ヶ所の指定喫煙所を設置している。
- ・ バス停側の指定喫煙所は、バス停と駅入口スロープの近くに位置する。

2 一部廃止する理由

バス停側の指定喫煙所は、バス停やスロープに近いので、たばこの煙が流れ着く状況にあり、改善の要望が多数寄せられていることから廃止するもの。

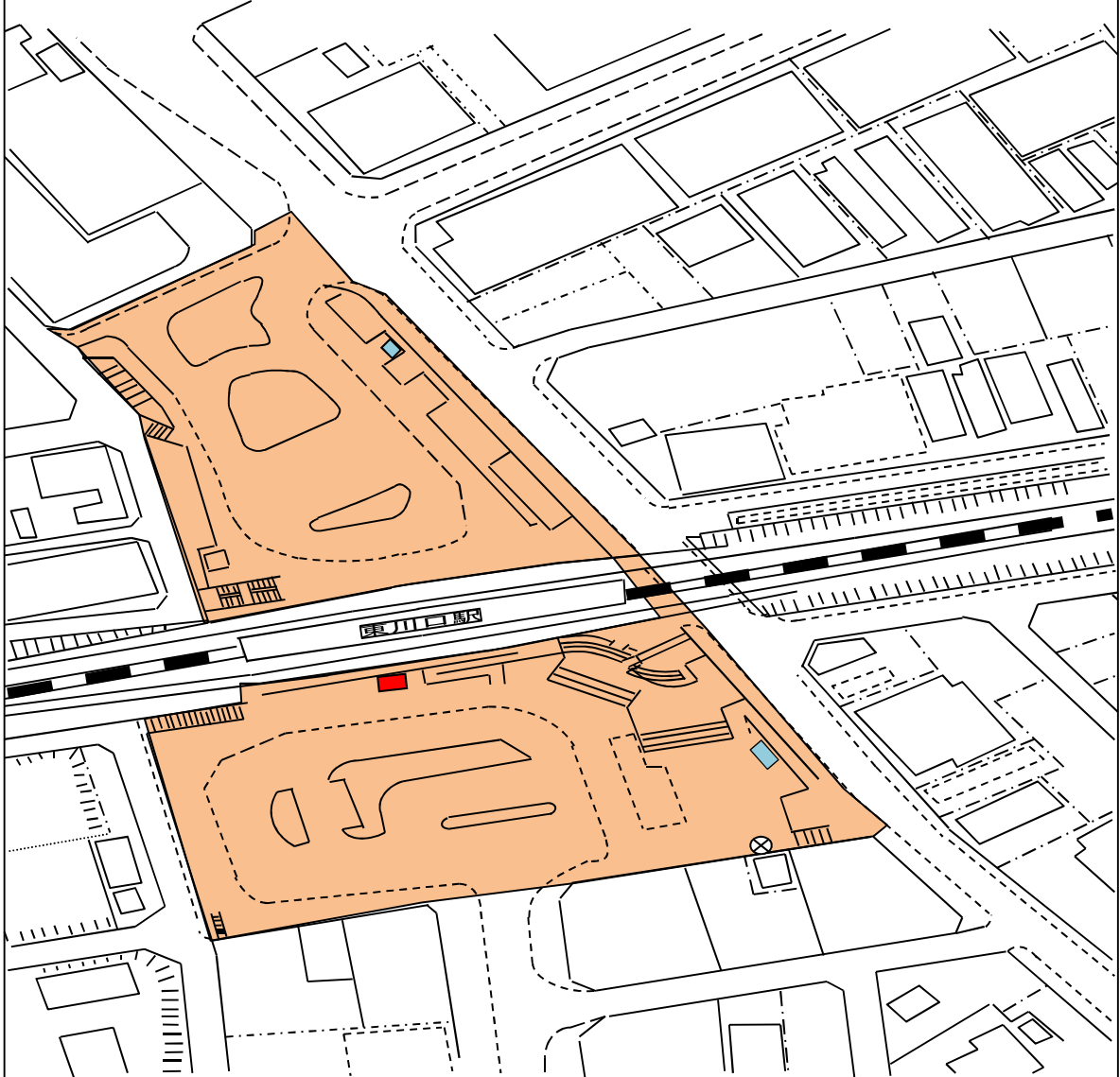
なお、交番側の指定喫煙所については存続する。




3 廃止手続きのスケジュール(案)

路上喫煙禁止地区の範囲を変更し、現在のバス停側の指定喫煙所部分を禁止地区に指定する。

- ・ 平成30年 8月 川口市廃棄物対策審議会の意見聴取
- ・ 平成30年 9月 路上喫煙禁止地区の範囲を変更する決裁
- ・ 平成30年 9月 変更する範囲と期日の告示
- ・ 平成30年11月 バス停側の指定喫煙所の廃止

東川口駅周辺路上喫煙禁止地区



-  路上喫煙禁止地区
-  指定喫煙所(バス停側)廃止予定
-  設置を継続する指定喫煙所

東川口駅 南口 喫煙所

1 バス停側喫煙所



喫煙所の奥が駅へのスロープ 距離約3m



喫煙所東側から 左がバス停 距離約8m